



イチジク株枯病抵抗性台木新品种「励広台1号」

イチジク栽培における**最重要病害株枯病**に新たな対策。野生種イヌビワとイチジクの種間交雑に世界で初めて成功し、種間交雑体を用いた抵抗性台木を品種登録出願。2022年の秋から「励広台1号」台の接ぎ木苗の販売開始！

背景と目的

イチジク: 結果樹齢に早く達し、収益性が高い。多くの府県で栽培を奨励。近年の健康志向の中で消費者の人気の高まる。

① 株枯病はイチジク栽培の最重要病害



罹病樹

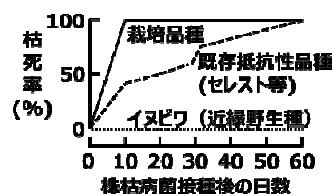


本病による廃園

② 既存防除方法の問題点

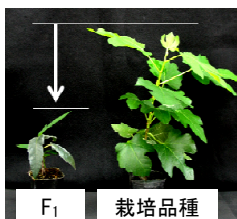


殺菌剤の毎月灌注
実施は困難



既存抵抗性品種は
延命するがいずれは枯死

③ イヌビワの抵抗性に着目して種間交雑



イチジクとイヌビワ花粉
による種間交雑第一
世代(F₁)は生育不良の
ため台木に不適



イチジクとF₁の花粉を
用いて戻し交雑第一
世代(BC₁)作出に
挑戦

④ 戻し交雑により複数のBC₁を作出



BC₁の生育は栽培
品種とほぼ同等



BC₁の半数はイヌビワ
由来の抵抗性を保持

⑤ 抵抗性台木新品种開発に向けて、2017年度から有望BC₁を絞り込み。

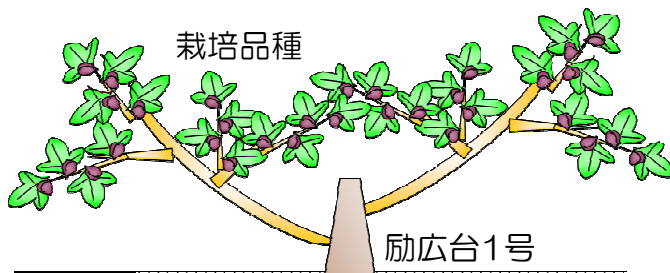
選抜基準: イヌビワ同等の**抵抗性**・イチジク的主要品種との**接ぎ木親和性**・
自根樹と同等の**果実品質・収量**

成果と将来像

基準を満たす1系統を
「励広台1号」
として農研機構と
品種登録出願
(2019年12月5日)



「励広台1号」台の
接ぎ木苗販売開始
(2022年秋以降)



これからのイチジク栽培のイメージ

*本研究の一部は生研支援センター「イノベーション創出強化研究推進事業」において実施しました。